JA標津酪農支援協議会の農福連携取り組みについて

標津町農業協同組合
営農部営農生活課　宮島　望

自己紹介

- 宮島　望(みやしま　のぞむ)
- 宮崎県都城市出身
- 高鍋農業高校　→　帯広畜産大学別科　→　標津町農業協同組合
- 平成17年　標津町農業協同組合　入組
- H17～H26　生産部 振興課　家畜人工授精師
- H26～H28　購買部 資材生活課　Aコープ店長
- H28～現在　営農部　営農生活課

標津町農業協同組合の概要

○名　称　　標津町農業協同組合（JA標津）
○代表者名　　代表理事組合長　下西　和夫
○設　立　　昭和23年
○酪農生産額　　140億円
　生乳生産額　　116億円　　112,032　トン
　個体販売額　　24億円　　11,140　頭
○農家戸数　　147戸　うち生乳生産農家118戸
○事業内容　　総合農協（金融共済、指導、購買、生産事業）
○職員数　　87人

（※標津町農業協同組合 令和4年総会資料より）

農福連携取組み背景①

- JA標津では、後継者不足、不慮の事故等により、酪農家戸数が減少する中、今後においても地域の生産を維持拡大すべく「人」「牛」「草」に対しそれぞれ実効性のある対策を計画しており、特に「人」に対しては、後継者育成対策・新規就農者をはじめ、雇用労働力や酪農ヘルパーなど多様な人材確保へ向け、地域のマンパワーを減少させない取り組みとして労働力状況調査やデータベースの作成・各種雇用フェアへの出展に加え、動物関連学校との連携等を行っています。JA標津酪農支援協議会では労働力確保への環境整備と持続可能な農業の確立と地域づくりを実践します。

農福連携取組み背景②

- **平成30年度より福祉事業所との連携を模索**

  →優良事例先の視察～(有)仁成ファーム

  →福祉事業所「くれぱす」(現くれすとぱすてる)と連携協議

- **令和元年度より各種事業を活用して連携を開始**

  →中山間事業「地域営農体制緊急支援試行加算」(R1)

  →農林水産省「農業の新しい働き方確立支援事業」(R1～R3)

参考資料１（JA標津酪農支援協議会）

事業実施期間令和元年度～令和３年度
（北海道）

令和元年度採択
農業の新しい働き方
確立支援（成果）

JA標津管内では、後継者不足、不慮の事故等により、酪農家戸数が減少する中、今後においても地域の生産を維持拡大すべく「人」「牛」「草」に対しそれぞれ実効性のある対策を計画しており、特に「人」に対しては、後継者育成対策・新規就農者をはじめ、雇用労働力や酪農ヘルパーなど多様な人材確保へ向け地域のマンパワーを減少させない取り組みとして労働力状況調査やデータベースの作成・各種雇用フェアへの出展に加え、動物関連学校との連携等を行っています。当協議会では労働力確保への環境整備と持続可能な農業の確立と地域づくりを実践します。

事業実施主体構成員

JA標津管内生産者（北海道指導農業士・北海道農業士・雇用を必要とする生産者）標津町・羅臼町・JA標津・根室農業改良普及センター・㈱オーレンス総合経営

目標値（基準年）

①労働力受入担い手農家数　　３９戸

②労働環境に満足している被雇用者の満足度　　－％（6名）

令和元年度取組内容

○羅臼町酪農体験モニター事業

・羅臼町住民向けに事業説明会を実施し、人手不足に悩む酪農家と働き口を探す求職者とのマッチング事業を開始。（4月24日事業説明 参加者４名）

○福祉事業所・他産業との連携（標津町）

【農福連携】酪農分野における軽作業を担う人員として、知的障がい者等の派遣を福祉事業所と連携。（11月～ 24戸利用）

【他産業連携】酪農作業の一部を担う労働力として、酪農作業補助員の派遣を建設業者と連携。（１月～21戸利用）

○各種イベント参加

・新/農業人フェア出展（10月・2月 生産者と事務局）
・八紘学園農業のしごと説明会（6月29日 事務局）
・帯広畜産大学就農相談会（10月9日 生産者と事務局）

令和２年度取組予定

・労働データベースに基づくマッチング
・「働き方改革」についてのセミナー実施
・雇用フェアの出展ホームページによる募集
・福祉事業所や他産業との連携構築
・動物関連学校との連携や酪農体験の受入れ
・無料職業紹介事業と酪農スタッフ専用宿舎の運営

○福祉事業所・他産業との連携による労働力確保

取組みコンセプト

地域の担い手が営農に専念できる環境を整備するため、福祉事業所や他産業との連携により、新たな労働力を導入できる体制整備を構築する。

福祉事業所との連携

【農福連携】　酪農分野における軽作業を担う人員として、知的障がい者等の派遣を福祉事業所と連携。（11月～現在　24戸利用）

〈作業内容〉
・作業時間 4時間/1回（2名+支援員１名）
・仔牛ハッチ除糞
・給水器の清掃
・搾乳パーラー室清掃
・牧柵補修作業
・牧草地枝拾い　など

他産業との連携

【他産業連携】　酪農作業の一部を担う労働力として、酪農作業補助員の派遣を建設業者と連携。（１月～現在　21戸利用）

〈作業内容〉
・作業時間 8時間/1日（１名）
・搾乳作業
・除糞作業
・給餌作業
・哺乳作業

※現在は作業補助員の派遣となっているが、将来的には酪農ヘルパーとしての派遣を目指す。

農福連携を進めるにあたって

- 事前にどのような作業が可能かなど福祉事業所と打ち合わせ（JA）
- 事前にどのような作業を依頼したいか農家との打ち合わせ（JA）
- 作業を細分化してもらい、1つ完結型で進めてもらう（農家）
- 派遣先の事業主（家族等）と一緒に作業してもらう（農家）
- トイレ・休憩場所を提供してもらう（農家）
- 作業道具の準備は農家。　作業服・長靴は福祉事業所で準備。

福祉事業所　⇔　JA　⇔　酪農家

農福連携取組み内容

- 請負事業所:　中標津町　企業組合くれすとぱすてる
- 作 業 体 制:　利用者2名　支援員1名
- 作 業 時 間:　1回4時間　(休憩時間含む)
- 時　　給:　1,000円×3名(1回12,000円)
- 作 業 内 容:　仔牛ハッチなどの除糞・清掃・敷料入れ/搾乳室の清掃/
  給水器の清掃/牛舎すす払い・窓ふき/廃ラップ処理/
  牧草地枝拾い(春先)/牧柵補修/牧場内草刈りなど

作業風景

農福連携による成果と課題

〈酪農家側〉

- 普段後回しになってしまう作業を処理してくれる。
- 牧場敷地内がきれいになった。
- 仔牛の死亡事故が減った。

〈事業所側〉

- 1年を通して作業がある。

〈課題〉

- 作業の細分化をしてもらう事が重要！！

（酪農ヘルパー同様に全体作業で考えてしまう農家もいる）

- 作業環境に慣れてもらう。

（最初は牛や大型機械に気を取られ集中できない作業員もいた）

JA 標津
SHIBETSU